

序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営みを始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展しました。

しかしながら、このような開発・発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、昔の面影がしのぶことができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただき、心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成22年3月

池田市教育委員会
教育長 村 田 陽

例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成21年度国庫補助事業（総額1,200,000円、国庫50%）として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、池田市教育委員会教育部生涯学習推進室社会教育課が実施し、中西正和が現地を担当した。
3. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては野村大作・辻武司の協力を得た。
4. 本書で使用する土層の色調は、「新版標準土色帖」（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修）による。
5. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々にご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

目 次

I	歴史的環境	1
II	宮の前遺跡発掘調査	5
	宮の前遺跡第49次調査	6
	宮の前遺跡第50次調査	7
	宮の前遺跡第51次調査	8
III	池田城跡発掘調査	10
	池田城跡第62次調査	11
	池田城跡第63次調査	12
IV	宮の前西遺跡第2次調査	13
V	神田北遺跡第16次調査	14
	報告書抄録	16

図 版

図版 1	1) 宮の前遺跡第49次調査 第1トレンチ全景 (東から) 2) 宮の前遺跡第49次調査 第1トレンチ西壁 (東から)
図版 2	1) 宮の前遺跡第49次調査 第2トレンチ全景 (北西から) 2) 宮の前遺跡第49次調査 第2トレンチ東壁 (西から)
図版 3	1) 宮の前遺跡第50次調査 第1トレンチ全景 (南東から) 2) 宮の前遺跡第50次調査 第2トレンチ全景 (南東から)
図版 4	1) 宮の前遺跡第51次調査 トレンチ全景 (北東から) 2) 宮の前遺跡第51次調査 トレンチ全景 (北から)
図版 5	1) 池田城跡第62次調査 第2トレンチ全景 (西から) 2) 池田城跡第62次調査 第3トレンチ全景 (北東から)
図版 6	1) 池田城跡第63次調査 トレンチ全景 (西南から) 2) 宮の前西遺跡第2次調査 第1トレンチ全景 (南東から)
図版 7	1) 宮の前西遺跡第2次調査 第2トレンチ全景 (北西から) 2) 神田北遺跡第16次調査 トレンチ全景 (北東から)
図版 8	1) 宮の前遺跡第49次調査 出土遺物 表 2) 宮の前遺跡第49次調査 出土遺物 裏
図版 9	1) 宮の前遺跡第50次・第51次調査、神田北遺跡第16次調査 出土遺物 表 2) 宮の前遺跡第50次・第51次調査、神田北遺跡第16次調査 出土遺物 裏

挿 図 目 次

I 歴史的環境

第1図 畑出土有舌尖頭器	1
第2図 主要遺跡分布図	2

第3図 豊島南遺跡 方形周溝墓	3
第4図 姫三堂古墳 竪穴式石室	3
第5図 池田城跡第31次調査 堀	4
II 宮の前遺跡発掘調査	
第6図 調査地位置図	5
宮の前遺跡第49次調査	
第7図 トレンチ位置図	6
第8図 第1トレンチ平・断面図	6
第9図 第2トレンチ平・断面図	7
第10図 出土遺物実測図	7
宮の前遺跡第50次調査	
第11図 トレンチ位置図	8
第12図 出土遺物実測図	8
第13図 トレンチ断面図	8
宮の前遺跡第51次調査	
第14図 トレンチ位置図	9
第15図 トレンチ東壁断面図	9
第16図 出土遺物実測図	9
III 池田城跡発掘調査	
第17図 調査地位置図	10
池田城跡第62次調査	
第18図 トレンチ位置図	11
第19図 トレンチ断面図	11
池田城跡第63次調査	
第20図 トレンチ位置図	12
第21図 トレンチ断面図	12
IV 宮の前西遺跡第2次調査	
第22図 調査地位置図	13
第23図 トレンチ位置図	13
第24図 トレンチ断面図	13
V 神田北遺跡第16次調査	
第25図 神田北遺跡出土石器	14
第26図 調査地位置図	14
第27図 トレンチ位置図	15
第28図 トレンチ平・断面図	15
第29図 出土遺物実測図	15

I 歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1km、南北9.2kmの南北に細長い市域で、西摂平野の北東部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形は、市域のほぼ中央に五月山が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山より南には、標高50mの緩やかな五月丘陵が広がり、その南側には、宇保段丘が位置し、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかになっている。

旧石器時代

旧石器が出土した遺跡は、伊居太神社参道遺跡、宮の前遺跡（螢池北遺跡）、宮の前西遺跡、神田北遺跡であるが、遺構については未確認である。

伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山丘陵西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和61年度の大坂府教育委員会による発掘調査で国府型ナイフ形石器、平成元・7年度の豊中市教育委員会による螢池北遺跡発掘調査でナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片1点が採取されている。神田北遺跡では、平成9年度からの大阪府教育委員会による都市計画道路池田・神田線拡幅工事に伴う調査で国府型ナイフ形石器が出土している。

縄文時代

縄文時代に関する遺跡も少ない。市域北部での遺跡は、古江遺跡から石匙、木部遺跡では石鏃が出土している。市内中部の伊居太神社参道遺跡で縄文時代のサヌカイト製の石鏃、京中遺跡でサヌカイト製の石鏃・石匕が採取され、近隣の畠ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査で、池田城跡下層からサヌカイト製の石鏃や晩期の生駒西麓産突帯文土器が出土し、土坑などの遺構も検出されている。

一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鏃・石匙、宮の前遺跡では石棒・石鏃が採取され、また、豊島南遺跡で後期から晩期の土器が出土している。しかし、出土遺物は少なく、縄文時代の集落の規模・性格等は明らかではない。

弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麓に位置する木部遺跡があげられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で、その際に弥生時代前期から後期の土器が出土し、平成15年度の調査においても前期から中期の土器が出土している。



第1図 畠出土有舌尖頭器



第2図 主要遺跡分布図

弥生時代中期においては、池田市南部の台地上で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43・44年に中国縦貫自動車道建設に伴い、大規模な発掘調査が行われ、方形周溝墓、竪穴住居跡、土塙墓等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約1kmに位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。

後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月丘丘陵で池田城跡下層、京中遺跡、五月山山頂で愛宕神社遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ベッド状遺構を伴う竪穴住居跡が検出されている。また、神田北遺跡においては、竪穴住居跡、土坑が検出されている。弥生時代後期になると小規模の遺跡が増加する。

古墳時代

市内に残る古墳時代前期の古墳は、池田茶臼山古墳と娘三堂古墳である。池田茶臼山古墳は五月山より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、竪穴式石室、埴輪円筒棺、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娘三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、明治時代に石室内から画文帶神獸鏡などが出土している。平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に竪穴式石室と粘土椁が存在することが確認されている。

古墳時代中期では小規模な低墳丘をもつ古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。

古墳時代後期では古江古墳、善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵器の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2~3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。古江古墳は平成17年に電波塔工事によって破壊され、その際の事後調査によって、須恵器、鉄刀が出土した。

上記の古墳が築造された一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、鉢塚古墳と二子塚古墳は異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡として、豊島南遺跡では古墳時代前期の焼失住居跡、後期の竪穴住居跡、住吉宮の前遺跡では前期の土器棺墓、竪穴住居跡、宮の前遺跡では中期の竪穴住居跡、木棺墓、土塙墓、埴輪円筒棺、禪城寺遺跡では飛鳥時代の竪穴住居跡が検出されている。北部の古江遺跡、木部遺跡で須恵器や土師器が出土しているが、遺構の検出は未だい



第3図 豊島南遺跡 方形周溝墓



第4図 娘三堂古墳 竪穴式石室

たっていない。

奈良時代から中世

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡、溝が検出されおり、豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物跡、溝が検出されている。寺院跡としては白鳳・奈良時代の瓦が採取された石積廐寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。

中世に入ると神田北遺跡で掘立柱建物跡が

検出されており、土師氏によって開発が推進された呉庭莊と関係するものと考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、さらに、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城跡は、五月山から南方へ張り出した台地上の南麓に位置する。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、塙列建物跡等を確認している。池田城の主郭以外でも調査が行われ、平成19年度の調査では15世紀終わりの堀を検出している。



第5図 池田城跡第31次調査 堀

参考文献

『原始・古代の池田』 池田市立池田中学校地歴部 1985年

『新修 池田市史』 第1巻 池田市 1997年

『宮之前遺跡発掘調査概報』 宮之前遺跡調査会 1970年

『禪城寺・宇保・神田北遺跡』 大阪府教育委員会 2002年

『住吉宮の前遺跡』 （財）大阪府文化財調査研究センター 2001年

II 宮の前遺跡発掘調査

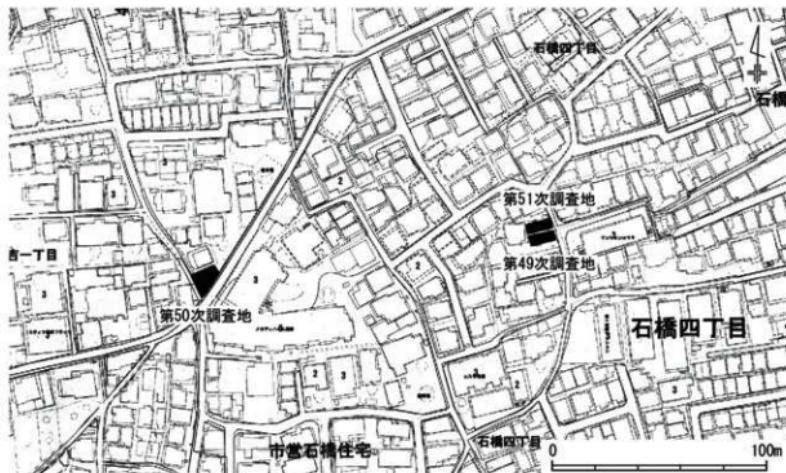
はじめに

宮の前遺跡は池田市石橋4丁目、住吉1・2丁目、豊中市蛽池北町に広がる旧石器時代から中世に至る複合遺跡で、待兼山の丘陵より西方へ発達した標高約30m前後の洪積台地に立地する。

宮の前遺跡は、昭和の初頭に地元の人々により石器や土器などが採取されており、遺跡の存在が知られていたが、本格的な調査は行われておらず、遺跡の性格等は不明であった。昭和43・44年の中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が実施され、その結果、弥生時代中期の方形周溝墓、竪穴住居跡、土壙墓等の他、古墳時代の竪穴住居跡、古墳等が検出され、特に、当時、検出例が少なかった方形周溝墓が住居とともに多く検出されたことから、住居域と墓域が同時に把握できる貴重な例として注目されるようになった。他にも、奈良時代の掘立柱建物跡、井戸、平安時代の掘立柱建物跡等も確認され、弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡として認識されるようになった。

その後、昭和61年度の大坂府教育委員会による調査、平成元年度の豊中市教育委員会による調査で、国府型ナイフ形石器が出土し、当遺跡が旧石器時代までさかのぼることが判明し、遺跡の範囲は東西700m、南北900mと拡大している。

周辺の遺跡としては、南方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡、古墳時代前期の土器棺墓、竪穴住居跡が検出された住吉宮の前遺跡が位置し、西方に待兼山遺跡、須恵器を生産した桜井谷古窯跡群が広がり、古墳時代前期の掘立柱建物跡が検出された蛽池東遺跡、翼状剥片が出土した蛽池西遺跡がある。



第6図 調査地位置図

参考文献

『宮之前遺跡発掘調査概報』 宮之前遺跡調査会 1970年

『蟹池北遺跡（宮の前遺跡）』 豊中市教育委員会 1995年

『新修 池田市史』第1巻 池田市 1997年

『住吉宮の前遺跡』（財）大阪府文化財調査研究センター 2001年

宮の前遺跡第49次調査

調査の概要

池田市石橋4-105-1において個人住宅建築に先立ち調査を実施した。調査地の西側のトレンチを第1トレンチ、東側を第2トレンチとした。調査面積は16m²である。

層序は第1トレンチ・第2トレンチとも同じで、

第1層 表土・盛土

第2層 耕土及び床土

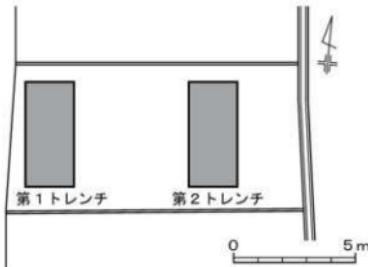
第3層 灰褐色粘質土

第4層 褐色粘質土

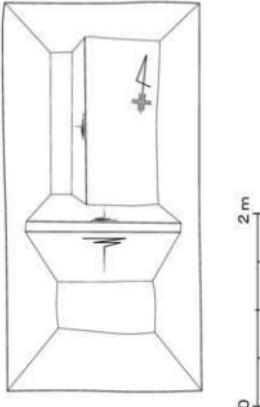
第5層 極暗褐色・黒色粘土

第6層 にぶい褐色・灰白色粘質土の地山である。

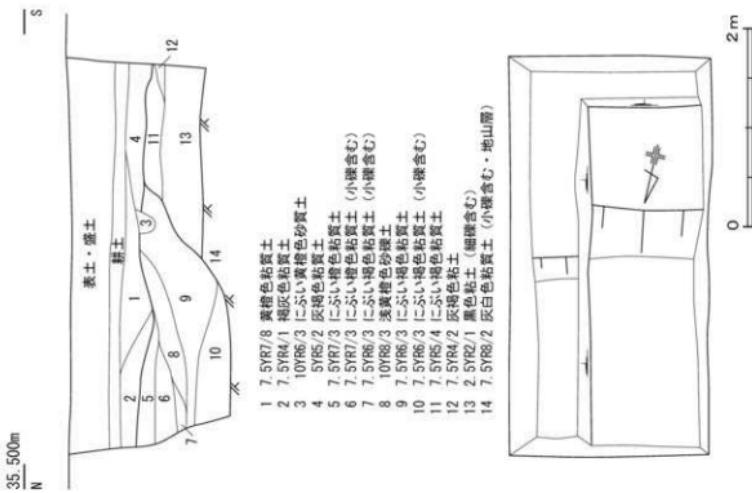
調査の結果、第1トレンチ・第2トレンチと



第7図 トレンチ位置図



第8図 第1トレンチ平・断面図



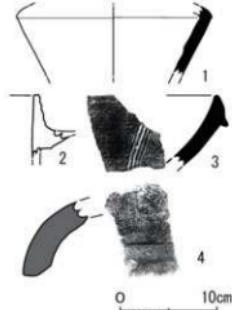
第9図 第2トレンチ平・断面図

もに北へ向かう溝を検出した。その溝は第2トレンチにおいて、幅264cm、深さ88cmを測るが、調査区より北側に広がるため、規模は不明である。

出土遺物は第5層及び溝より、土師器皿、陶器、瓦等が出土した。

1は第2トレンチ第5層より出土した須恵器で壺と考えられる。2から4は第2トレンチ溝より出土した。2は土師質の羽釜。3は備前の播鉢で、口縁部の断面は三角形である。4は丸瓦で内側は布目が残る。

出土遺物から溝の埋没時期は、15世紀終わりから16世紀初め頃と考えられる。



第10図 出土遺物実測図

宮の前遺跡第50次調査

調査の概要

住吉1-264-2において個人住宅建築に先立ち調査を実施した。調査地の東側のトレンチを第1トレンチ、西側を第2トレンチとした。調査面積は14m²である。

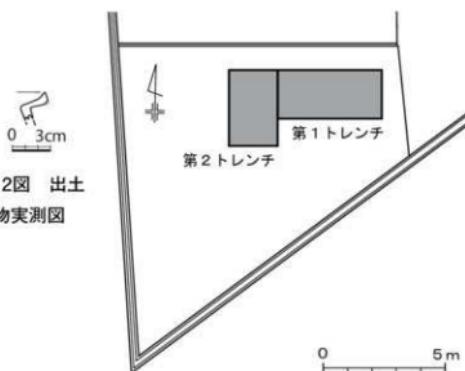
層序は、

第1層 表土・盛土

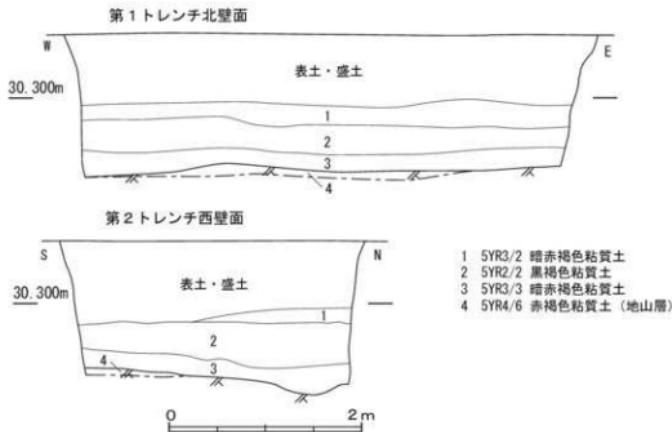
第2層 暗赤褐色粘質土

第3層 黒褐色粘質土
 第4層 暗赤褐色粘質土
 第5層 赤褐色粘質土（やわらかい土）の地山である。

調査の結果、遺構は確認できなかつたが、第4層より、土師器、第12図 出土須恵器等の出土遺物があった。し 遺物実測図かし、ほとんどが小片のため、実測できるものは、第12図の弥生土器の口縁部だけである。



第11図 トレンチ位置図



第13図 トレンチ断面図

宮の前遺跡第51次調査

調査の概要

石橋4-105-7の一部において実施した建売住宅建築に伴う試掘調査である。調査面積は6m²である。本調査地は宮の前遺跡第49次調査地の北に面しており、第49次調査で検出した溝の状況を把握すること主眼とし実施した。

層序は、

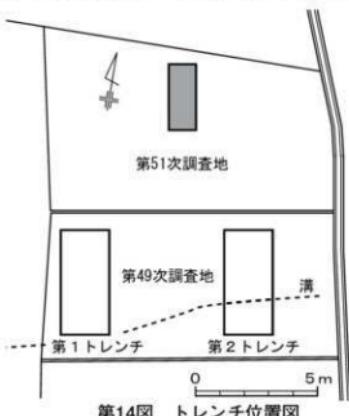
第1層 表土・盛土

第2層 褐灰色粘質土

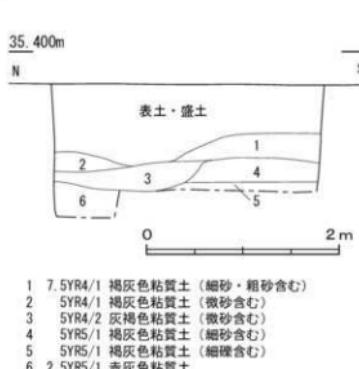
第3層 赤灰色粘質土である。建築予定の基礎の関係上、深く掘削はできなかったため、地山の検出までは至らなかった。

調査の結果、第49次調査で検出した溝の立ち上がりは確認できなかった。そのため、本トレチは溝の中に位置し、溝は本トレチよりさらに北に広がっていると考えられる。

出土遺物は第2・3層（溝の埋土）より土師器、須恵器等が出土するが、実測できるものは、第3層より出土した第16図の瓦質の鍋だけである。



第14図 トレチ位置図



第15図 トレチ東壁断面図

第49次調査・第51次調査の結果、東西に延びる15世紀終わりから16世紀初め頃の溝を検出した。第49次調査地・第51次調査地はともに北に広がる台地より高さ約1m落ちた裾部分に位置するため、溝は台地を取り巻くように裾部分に掘削されたものか、または、台地の排水用に掘削された溝とも考えられる。しかし、今回の調査では不明な点が多く、今後の周辺の調査結果の積み重ねが必要である。



第16図 出土遺物実測図

III 池田城跡発掘調査

はじめに

池田城は、池田市城山町・建石町一帯に位置し、戦国期を中心とする国人池田氏の居城で、五月山から張り出した標高50mを測る台地の西縁辺に立地している。その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選ばれていたことが判る。

池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、13世紀後半頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、荘園経営や高利貸経営により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになった。しかし、永禄11年（1568）織田信長による摂津入封に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることとなった。

池田城全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43・44年に主郭の一部が発掘調査され、礎石を伴う建物跡、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水様の庭園、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年から4年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠



第17図 調査地位位置図

渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる埠列建物等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約100mの位置で大手口が存在することや平成19年度の調査で15世紀終わりの堀が検出されており、少しづつであるが城の全容が解明している。

また、池田城以前の時代についても、昭和60年以降の大坂府教育委員会による調査では縄文時代晩期の土器、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されており、平成3年度の池田市教育委員会による発掘調査では、庄内期のベッド状遺構を伴う竪穴住居跡を検出している。

池田城跡第62次調査

調査の概要

池田市上池田1-3335-3において、個人住宅建築に先立ち調査を実施した。

調査地は旧能勢街道沿いに面する。調査地内北側に第1トレーニチ、中央に第2トレーニチ、南側に第3トレーニチを設定したが、第1トレーニチは全面が攪乱のため、調査できなかった。

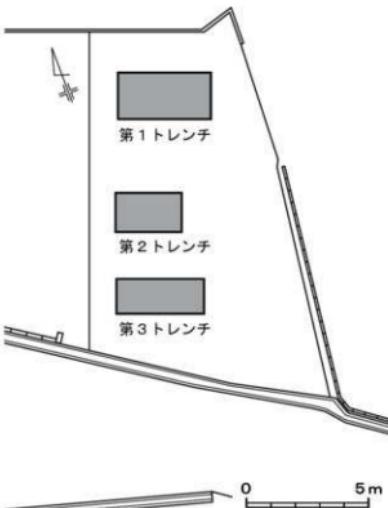
調査面積は24m²である。

層序は、

第1層 表土・盛土

第2層 にぶい黄橙色粘土の地山である。

調査の結果、第2・第3トレーニチも攪乱が多く、一部地山を確認したが、包含層等は確認できなかった。また、地山上から遺構は確認できなかったが、盛土内から土師器皿が出土したが、小片のため実測はできなかった。



第18図 トレーニチ位置図



第19図 トレーニチ断面図

池田城跡第63次調査

調査の概要

池田市上池田1—460において、共同住宅建築に先立ち調査を実施した。調査地は池田城跡の範囲の南端に位置する。調査面積は9m²である。

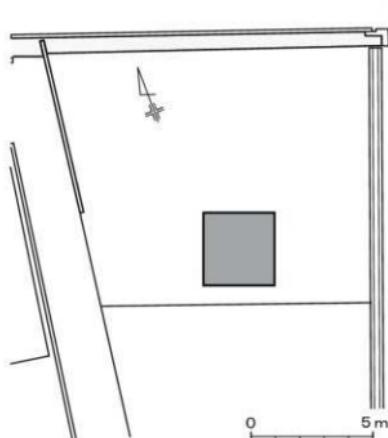
層序は、

第1層 表土・盛土

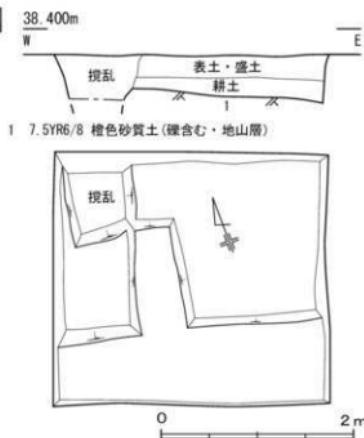
第2層 耕土

第3層 橙色砂質土の地山である。

今回の調査では、遺構・出土遺物は確認できなかった。



第20図 トレンチ位置図



第21図 トレンチ平・断面図

IV 宮の前西遺跡第2次調査

はじめに

宮の前西遺跡は池田市空港1丁目に広がる遺跡で、平成2年の工事中に土師器が発見され、遺跡として周知されるようになった。平成4年の調査では須恵器等が出土しており、また、翼状剥片が採取されている。

周辺の遺跡としては、西方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡、北

側に古墳時代前期の竪穴住居跡が検出された住吉宮の前遺跡、東方に宮の前遺跡が位置している。

調査の概要

池田市空港1-179-1において個人住宅建築に先立ち調査を実施した。調査地の西側のトレチを第1トレチ、東側を第2トレチとした。調査面積は10m²である。

層序は第1トレチ・第2トレチとも同じで、

第1層 表土・盛土

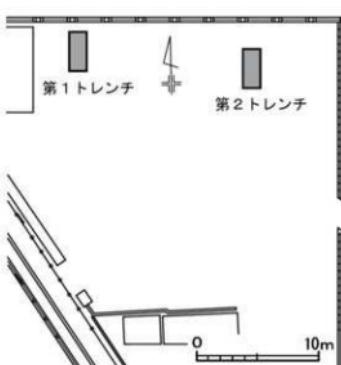
第2層 耕土及び床土

第3層 極暗赤褐色粘質土

第4層 明褐色粘質土の地山である。

調査の結果、地山（第4層）の上有機質層の極暗赤褐色粘質土（第3層）を確認するが、出土遺物は確認できなかった。また、遺構も確認できなかった。

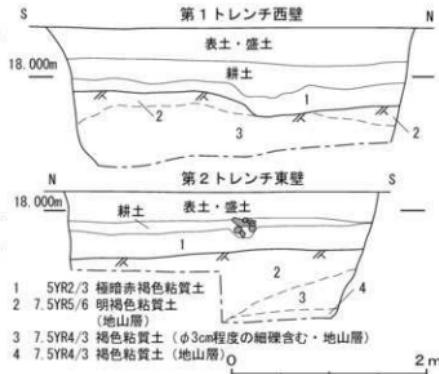
本調査以前に実施した周辺の埋設管工事立会調査においても同様で、地山上に極暗赤褐色粘質土を確認するが、出土遺物・遺構は確認できなかった。



第23図 トレチ位置図



第22図 調査位置図



第24図 トレチ断面図

V 神田北遺跡第16次調査

はじめに

神田北遺跡は池田市の南側、神田1丁目一帯にひろがる旧石器時代から中世にいたる複合遺跡である。

昭和50年に石器の発見により周知される。同年、発掘調査が行われ、縄文時代の石器、弥生時代後期の土器や古墳時代の須恵器等が出土している。

その後のマンション・住宅建築等に伴う事前の発掘調査により、弥生時代後期の竪穴住居跡、奈良時代の掘立柱建物跡、溝、中世の掘立柱建物跡等が見つかり、徐々にではあるが遺跡の概要が判明しつつある。また、平成11年の大阪府教育委員会による調査では、国府型ナイフ形石器が見つかっており、旧石器時代まで遡る遺跡

であることが判明している。

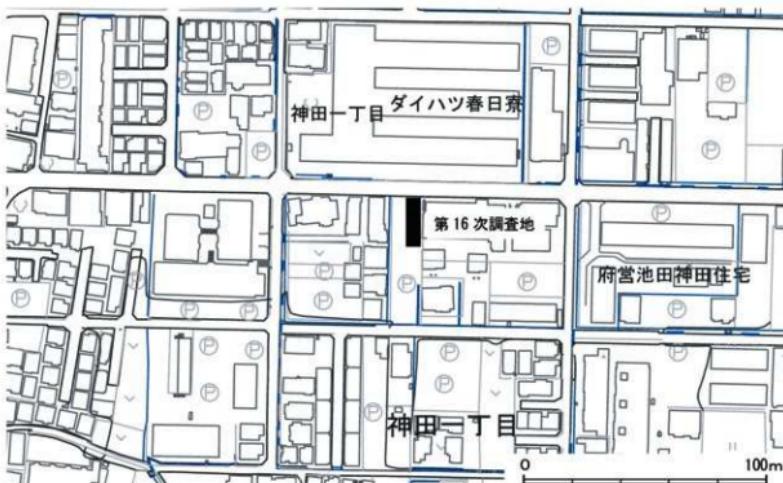
また、周辺の遺跡として、神田北遺跡より北に位置する禪城寺遺跡では、飛鳥時代の竪穴住居跡が見つかっている。

参考文献

『禪城寺・宇保・神田北遺跡』大阪府教育委員会 2002年



第25図 神田北遺跡出土石器



第26図 調査位置図

調査の概要

調査は神田1-1270-1において、個人住宅建築に先立ち実施した。調査地の北側にトレンチを設定した。調査面積は4m²である。

層序は、

第1層 表土・盛土

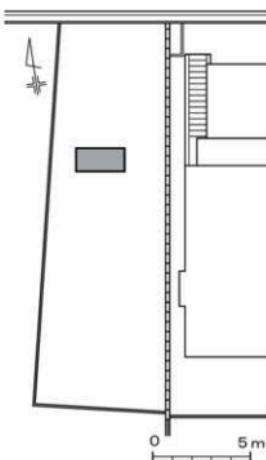
第2層 耕土

第3層 暗褐色粘質土

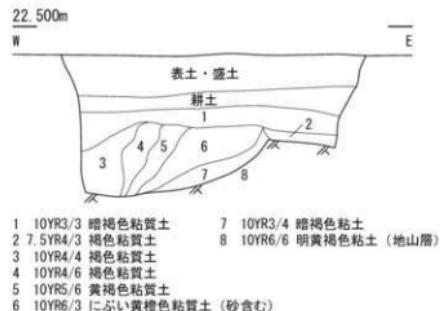
第4層 明黄褐色粘土の地山である。

調査の結果、北に向かう落ち込みを検出した。落ち込みは幅172cm、深さ60cmまで測るが、調査区外北側に広がるため、規模は不明である。

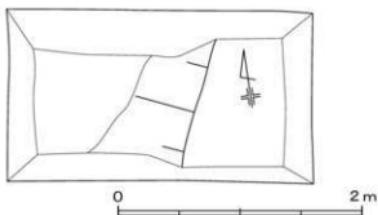
落ち込みより、土師器、須恵器等が出土したが、実測できるものは、第29図の須恵器の底部だけである。



第27図 トレンチ位置図



第29図 出土遺物実測図



第28図 トレンチ平・断面図

報 告 書 抄 錄

ふりがな	いけしまいとうふんかざいはくうちょうさいほう							
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報							
副書名	池田市文化財調査報告第36集							
卷次								
シリーズ名	池田市文化財調査報告							
シリーズ番号	36							
編著者名	中西正和							
編集機関	池田市教育委員会							
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号 TEL072-752-1111							
発行年月日	2010年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 編番	北緯	東経	面積	面積	調査原因	
宮の前遺跡第49次調査	石橋4-105-1	272043	—	34度48分10秒	135度26分38秒	090520～ 090525	1.6 m ²	個人で建設したため 難発見
宮の前遺跡第50次調査	住吉1-264-2	272043	—	34度48分10秒	135度26分32秒	090713	1.4 m ²	個人で建設したため 難発見
宮の前遺跡第51次調査	石橋4-105-7	272043	—	34度48分10秒	135度26分38秒	091001	6 m ²	個人で建設したため 難発見
池田城跡第62次調査	上池田1-3335-3,4	272043	—	34度49分27秒	135度25分49秒	090521	2.4 m ²	個人で建設したため 難発見
池田城跡第63次調査	上池田1-406	272043	—	34度49分22秒	135度25分50秒	091221	9 m ²	個人で建設したため 難発見
宮の前西遺跡第2次調査	空港1-179-1	272043	—	34度47分45秒	135度26分26秒	091104	1.0 m ²	個人で建設したため 難発見
神田北遺跡第16次調査	神田1-1270-1	272043	—	34度48分44秒	135度25分46秒	091108	4 m ²	個人で建設したため 難発見
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
宮の前遺跡第49次調査	古墳・集落跡	旧石器から中世	溝	須恵器・瓦他	中世の溝			
宮の前遺跡第50次調査	古墳・集落跡	旧石器から中世	—	弥生土器他				
宮の前遺跡第51次調査	古墳・集落跡	旧石器から中世	溝	瓦質鍋他	中世の溝			
池田城跡第62次調査	城館跡・集落跡	縄文から中世	—	土師器壺				
池田城跡第63次調査	城館跡・集落跡	縄文から中世	—	—				
宮の前西遺跡第2次調査	集落跡	旧石器から古墳	—	—				
神田北遺跡第16次調査	集落跡	旧石器から中世	落ち込み	須恵器・土師器				
要約	宮の前遺跡第49次調査・第51次調査では中世の溝を確認する。 神田北遺跡第16次調査では落ち込みを確認する。							



1) 宮の前遺跡第49次調査 第1トレンチ全景（東から）



2) 宮の前遺跡第49次調査 第1トレンチ西壁（東から）



1) 宮の前遺跡第49次調査 第2トレンチ全景（北西から）



2) 宮の前遺跡第49次調査 第2トレンチ東壁（西から）



1) 宮の前遺跡第50次調査 第1トレンチ全景（南東から）



2) 宮の前遺跡第50次調査 第2トレンチ全景（南東から）



1) 宮の前遺跡第51次調査 トレンチ全景（北東から）



2) 宮の前遺跡第51次調査 トレンチ全景（北から）



1) 池田城跡第62次調査 第2トレンチ全景（西から）



2) 池田城跡第62次調査 第3トレンチ全景（北東から）



1) 池田城跡第63次調査 トレンチ全景（西南から）



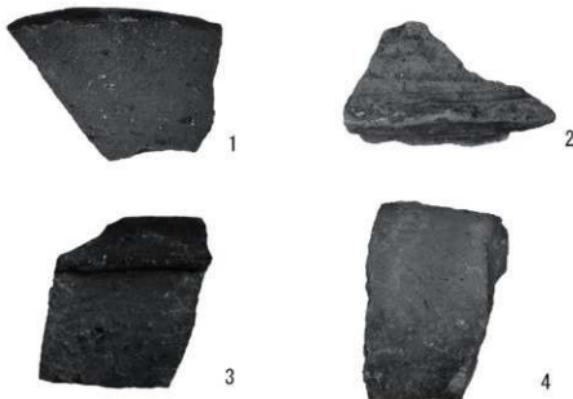
2) 宮の前西遺跡第2次調査 第1トレンチ全景（南東から）



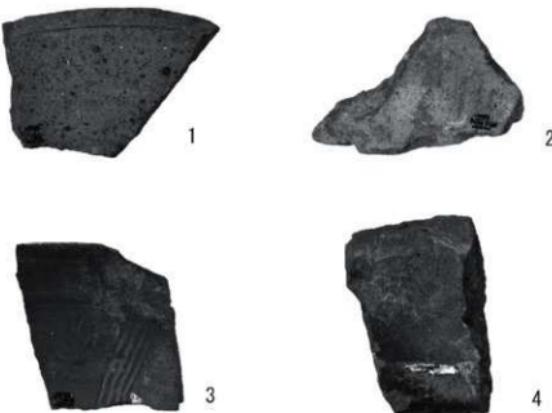
1) 宮の前西遺跡第2次調査 第2トレンチ全景（北西から）



2) 神田北遺跡第16次調査 トレンチ全景（北東から）



1) 宮の前遺跡第49次調査出土遺物 表



2) 宮の前遺跡第49次調査出土遺物 裏



1) 宮の前遺跡第50次・51次、神田北遺跡第16次調査出土遺物 表



2) 宮の前遺跡第50次・51次、神田北遺跡第16次調査出土遺物 裏

池田市文化財調査報告第36集
池田市埋蔵文化財発掘調査概報
2009年度
2010年3月

発行 池田市教育委員会
池田市城南1丁目1番1号

編集 社会教育課

印刷 株式会社河西喜昇堂